

ナス小陥没症の当面の被害防止対策と推定される発生原因

【1 小陥没症の対策と推定される原因】

- (1) ペンチオピラド水和剤（商品名：アフェットフロアブル）、アズキシストロビン・TPN 水和剤（アミスターオプティフロアブル）、イプロジオン水和剤（ロブラール水和剤）を防除体系に組み込むことで、小陥没症の発生を抑制できます。
- (2) ナス果実の小陥没症の発生原因は、ナスの葉に発生する褐色斑点病（病原菌：*Thanatephorus cucumeris*（不完全世代：*Rhizoctonia solani*））の感染によるものと推定されます（図1）。
- (3) 小陥没症対策として、栽培終了後には褐色斑点病の被害茎葉を圃場外に持ち出し適切に処分し、次年度の伝染源密度を低減することが重要です。



図1 推定されるナス小陥没症の発生サイクル

【2 留意事項】

- (1) 今回の成果は当面の対策です。今後、小陥没症の発生メカニズム等が解明された場合は、追加の情報を提供します。
- (2) 農薬選択の際には、使用前に必ずラベルを確認し、使用基準を遵守してください。

担当研究室 環境部 病理昆虫研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田 20-1 TEL : 0197-68-4424 FAX : 0197-71-1085